



大 二十三年、旧国鉄湯前線として人吉駅を分岐駅とした湯前町まで二十四・九キロの線区が誕生しました。この路線が後に様々な沿革を経て現在の「くま川鉄道」となります。当時の橋梁や駅舎がそのまま残るこの鉄道は、今も町民の生活に密着した、地域の鉄道として親しまれています。広大な田園の中を走ることから、ついた車両の名前は「田園シンフォニー」。水戸岡鋭治氏のデザインによるこの車両を目当てに、全国の鉄道ファンが訪れる観光列車としての顔と、地元で学生たちの通学列車としての顔を合わせ持つ、ちょっとプレミアムな車両です。また、歴史を持つこの線路沿いには「木上（きのえ）駅」のプラットホームと、町内の川に架かる五箇所の橋梁が国登録有形文化財として登録されています。

くま川鉄道

カラフルな車両カラーは全5色。春（ベージュ）・夏（青）・秋（赤）・白秋（白）・冬（茶）のテーマカラーで色分けされています。普段は主に2両編成で運行しています。



通票閉塞

く ま川鉄道には、鉄道ファンが喜ぶ、もう一つの顔があります。それが「通票閉塞」と呼ばれる運行システムです。鉄道車両は制動距離が長いため、危険を視してからのブレーキでは間に合いません。そのため、線路を一定区間（閉塞区間）に区切り、その区間に同時に二つの車両が入らないように管理するシステムです。鉄道が走り出した当時は全国でよく運用されたシステムですが、非自動閉塞方式（人手を介する閉塞方式）として今でも採用されているのは、くま川鉄道と、全国でも数箇所のローカル鉄道だけです。



自然体が美しい

